



(題字・野口孝重先生)

発行所 名城大学電気会

名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電話(052)832-1151

名城大学理工学部電気電子工学科内

編集責任者 伊藤 公一

印刷 常川印刷株式会社



名城大学電気会第53回通常総会のご案内

名城大学電気会会長 **伊藤 公一**
(I部60年卒)

名城大学電気会会員の皆さまにおかれましては、各地域、各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より電気会の活動にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

電気会は、昭和37年9月に設立されました。偶然にも、ちょうど私の生まれた年・月と同じであり、電気会が私と同じ時代を歩んできたことを想うと大変感慨深いものがあります。そして、電気会はその長い歴史から、現在、会員数は11,500余名と大変大きな組織となっています。この伝統と歴史のある電気会が、皆さまにとってより有意義な会となるように、役員一同、誠心誠意努めてまいっている所存です。

さて、会則に記載がありますように、電気会の目的には、「電気電子工学科発展への寄与」と「電気会会員への貢献」の2つがあります。このうち、前者の実現のためには、「卒業研究中間発表会における審査員としての参加」、「研究室対抗ソフトボール大会へのOBチーム参加」、「卒業研究発表会の聴講」、「卒業祝賀会の開催」など、近年充実した活動を行っています。特に、卒業研究中間発表会への参加は、研究の初期段階において学生にビジネスの視点を伝えることができ、大変意義のある活動と考えています。また、後者の実現のためには、電気会会誌の発行やホームページなどを通して、皆さまに電気会の活動状況をご報告するとともに、電気電子工学科の最新の研究内容など、ホットな話題を提供しています。さらに、毎年1月には新春懇談会を実施し、電気会会員相互の懇親を深めています。

この新春懇談会は、「電気会会員への貢献」の目的達成において、最も重要な行事です。そこで、この会の意義を改めて確認したいと思います。

新春懇談会の皆さまにとってのメリットは、大きく二つあると考えます。一つは、皆さまの仕事に直接役立つということ、もう一つは、皆さまの成長に役立つということです。

前者について詳述します。新春懇談会への参加者(電気会会員)には、さまざまな立場の方がおられます。所属種別では、製造業、建設業、商社などの民間企業や官公庁の方、取り扱う製品や技術では、電力系、電子系、情報系と多様です。つまり、新春懇談会は、さまざまな分野の専門家が一堂に会する場となっています。したがって、皆さまが普段疑問に思うことやより詳しく知見を深めたいことを、各分野の専門家に確認することができます。また、他の企業の方と直接商談に結び付く可能性もあります。

後者は、特に若い方に有用です。新春懇談会への参加者は、年齢の幅も極めて広く、20代から80代までおられます。若い

方が先輩の経験談・失敗談を聞くことは、今後の成長に極めて重要なことだと思います。

また、これは「知の継承」という、人類の課題克服のためにも重要と考えています。我々人類は、残念ながら「寿命」を持っています。これは、おそらく進化論的に考えれば、多様なDNAを持つ子孫を残し、人類が生存競争に勝ち残る、という意味において重要な選択であったと考えられます。しかし、残念ながら、知識・知恵・知能が次世代に完全には継承されない、という問題があります。戦争やバブル経済など、人類が同じ過ちを繰り返すのは、もしかするとこの「寿命」に起因しているのかもしれない。したがって、若い方が、諸先輩方から様々なお話を伺うことは、この「知の継承」という意味においても大変重要なことだと考えます。少し大げさな話かもしれませんが、私は、新春懇談会がこの問題を解決する場になればよいと考えています。皆さまにおかれましては、是非、この意味と上記メリットをご理解いただき、新春懇談会への積極的な参加をお願いしたいと思います。なお、新春懇談会の昨年の模様は、本会誌およびホームページでご確認ください。

末尾となりますが、今後も電気会活動へのご理解とご協力を重ね重ねお願い申し上げます。

<2019年度 電気会 活動紹介>

1. 第53回電気会総会 2019年6月7日(土)
2. 卒業研究中間発表会への審査員として参加、電気会会長賞の表彰 2019年9月7日(土)
3. 研究室対抗ソフトボール大会支援とOBチーム参加 2019年10月26日(土)
4. 電気電子工学科教員との懇談会 11月予定
5. 新春懇談会 2020年1月25日(土)名古屋ガーデンパレス
6. 卒業研究発表会の聴講 2020年2月予定
7. 電気電子工学科卒業証書授与式への参加、卒業祝賀会 2020年3月17日(火)
8. 役員会 6回/年、評価委員会・代議員会 各1回/年
9. 電気会ホームページの更新(各行事案内・報告)
10. 名城大学理工同窓会、校友会、名城大学評議員等への役員派遣
11. 名城大学関係団体行事(各科同窓会行事、名城大会記念行事等)への参加

名城大学電気会第53回通常総会開催要領

日 時 2019年6月9日(日)

受付: AM 9:00~

開始: AM 9:30~10:20

場 所 名城大学 共通講義棟南 S401 室

- 議 題: 1. 2018年度事業報告
2. 2018年度決算報告、会計監査報告
3. 2019年度事業計画及び予算案
4. 電気会役員、代議員一部変更案
5. その他



電気電子工学科長あいさつ

電気電子工学科 教授 兎玉 哲司

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。学科長としては2年目ですが、本年もより一層尽力をしておりますので、昨年同様のご厚誼を賜われますようお願い申し上げます。

さて、名城大学のホームページで公表されているように、昨年10月、天白キャンパスで研究実験棟Ⅲ（仮称）の起工式が行われました。この建物は天白キャンパスの東門北側（NTT八事寮跡地）に建設され、地上4階・地下1階の規模で完成後は研究室、実験室、学生ホール、ラーニングコモンズなどの施設が入ることになっています。電気電子工学科は、皆様が学生の時から慣れ親しんだ2号館から、2020年4月、研究実験棟Ⅲに移転します。この建物の地下1階は本学科、1階は本学科と材料機能工学科、2階は本学科とテクニカルセンター、3・4階は情報工学科が入る計画です。現在、移転に向けた取り組みとして、電気主任技術者や電気通信主任技術者の認定校として必要な機材を更新する計画を策定し、また会議室や演習室の設備などは順次更新しています。

これとは別に、あまり知られていないようですが、電気電子工学科の入学定員は2013年度～2016年度130名に減っていましたが、2017年度からは以前の150名になっています。入学定員が減りましたので、教員数（定数）は16名に減っていましたが、2020年4月からは以前の18名になり、学生数600名（150名×4）、教員数18名の教育研究体制に戻ります。

したがって、偶然ですが、2020年4月からは、施設や設備のみならず、教育研究体制が整備されますので、平成最後となる本年度は、その準備期間と位置づけ、万全の態勢を構築していきたいと考えています。これにより、新しい年号のもとでの本学科のさらなる発展を目指しています。

この変化の中で、本学科は、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受

入れの方針の三つのポリシーを策定し、ポリシーに基づく体系的で組織的な大学教育を、点検・評価を通じた不断の改善に取り組みつつ実施しています。その一つである卒業認定・学位授与の方針を、以下に示します。

電気電子工学科は、本学の立学の精神と本学部の人材養成目的にもとづき、次の能力・意欲を身につけた学生に学位を授与します。

- ①社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を有する。
- ②電気回路、電子回路、電気磁気学、プログラミング等の電気電子工学の知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を有する。
- ③主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、電気電子工学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

この本学科のポリシーの重要なポイントは、悪い言い方をすれば、電気電子工学科としては特徴のないことです。至極真つ当で、至極常識的な電気電子工学科を考えています。その理由は、基本的には、社会において必要とされる中堅の電気電子技術者の育成を目指しているからです。その中で、当然のこととして意欲のある学生については、グローバルな環境で活躍できる世界トップクラスの研究者・技術者となることを望んでいます。

社会との連携やキャリア教育、その自己点検・評価などの取り組みにおいては、平素より何かとお世話になり心よりお礼申し上げます。末筆ではありますが、皆様のご健康とご発展を祈念しまして、学科長の挨拶を申し上げます。

2018年度事業報告(案) (報告期間 2018年6月1日～2019年5月31日)

1. 電気会役員会等の開催

会議名	開催日時	主な議題その他
第52回電気会総会	2018年 6月10日(日) 9:00～9:50	場所:名城大学天白キャンパス共通講義棟南館S 401 室 参加者:28名 議案:2017年度事業報告・決算、2018年度事業計画・予算、役員・代議員改選、会則変更
第1回役員会	2018年 8月1日(水) 19:00～20:30	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:9名 議題: 1.卒業研究中間発表会 2.年間活動スケジュール 3.電気会事業のコストダウンと行事の見直し 4.その他:総会報告
第2回役員会	2018年 10月2日(火) 19:00～20:30	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:10名 議題: 1.ソフトボール大会準備 2.新春懇談会の方針案 3.電気電子工学科教員との懇談会準備 4.電気会誌誌案 5.理工同窓会報告 6.その他:卒業研究中間発表会報告
第3回役員会	2018年 12月11日(火) 19:00～20:30	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:9名 議題: 1.新春懇談会準備 2.卒業証書授与式・卒業祝賀会の方針案 3.理工同窓会報告 4.その他 ・ソフトボール大会、電気電子工学科教員との懇談会報告 ・各科同窓会行事への参加者確認
第4回役員会	2019年 1月15日(火) 19:00～20:30	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:8名 議題: 1.新春懇談会最終調整
第5回役員会	2019年 2月16日(金) 19:00～21:00	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:9名 議題: 1.卒業証書授与式・卒業祝賀会準備 2.電気会誌の状況報告 3.その他 ・新春懇談会報告 ・卒業研究発表会への参加者確認
第6回役員会	2019年 4月9日(火) 19:00～21:00	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:10名 議題: 1.評価委員会・代議員会準備 2.総会準備 3.電気会誌誌状況報告 4.理工同窓会報告 5.その他 ・卒業証書授与式・卒業祝賀会報告
2018年度評価委員会	2019年 4月23日(火) 19:00～21:00	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:10名 議題: 1.総会議案に関する審議
2018年度代議員会	2019年 5月10日(金) 19:00～21:00	場所:名城大学新校友会館 3階 第1会議室 参加者:24名 議題: 1.総会議案に関する審議

- 電気電子工学科卒業研究中間発表会
 - ・日程:2018年9月8日(土) ・参加者(電気会審査員):6名
 - ・場所およびスケジュール
○発表会:タワー75 2F学生ホール
第1回 9:40～11:00 第2回 11:10～12:30 第3回 14:00～15:20
第4回 15:30～16:50
○表彰式および懇親会 時間:17:30～18:30 場所:タワー75 レセプションホール
電気会会長賞を4名に授与
- 研究室対抗ソフトボール大会
 - ・日程:2018年10月27日(土) ・電気会参加者:6名
 - ・結果:1勝1敗
- 電気電子工学科教員との懇談会
 - ・日程:2018年11月22日(木) ・場所:木曾路 八事店 ・会費:5,000円
 - ・参加者(敬称略):教員 11名、電気会 6名
- 第24回名城大学電気会新春懇談会
 - ・日程:2019年1月19日(土) ・場所:名古屋ガーデンパレス
 - ・スケジュールおよび内容
○第1部 パネルディスカッション 3F 錦の間 17:00～17:50
テーマ:夢について語り合おう!
コーディネーター:名城大学電気電子工学科 伊藤教授、電気会 伊藤
パネラー:17名(学生10名、若手社会人7名)
○第2部 懇親パーティー 2F 翼の間 18:00～20:00
参加者:82名
一般33名(電気会役員含む)、来賓15名、教員8名、学生26名、
教員11名(OB教員3名含む)
- 卒業論文発表会
 - ・日程:2019年2月19日(火)、20日(水)
 - ・電気会参加者:1名
- 卒業証書授与式・卒業祝賀会
 - ・日程:2019年3月20日(水)
 - ・スケジュールおよび内容
○卒業証書授与式:名城大学共通講義棟東館 H304 室
卒業記念品授与 コロック(時計)
卒業論文発表会・修士論文公聴会の優秀発表者14名に図書券を進呈
○卒業祝賀会(電気電子工学科との共催)名城大学グラン亭
電気会参加者:7名
- その他行事参加
 - 第13回 理工同窓会 情報交換会
 - ・日程:2018年10月25日(木) ・場所:タワー75 レセプションホール
 - ・参加者:3名
 - 第7回スペシャルホームカミングデイ
 - ・日程:2019年3月2日(土) ・場所:名城食堂 ・参加者:1名
 - ・対象者:昭和48年、49年の卒業生
- 各科同窓会行事
 - ・建築同窓会 情報交流会:2018年11月17日(土) タワー75 参加者1名
 - ・数学会 数学研究会:2019年1月14日(月)名城大学天白キャンパス 参加者1名
 - ・機械会 新春懇談会:2019年1月26日(土)名古屋ガーデンパレス 参加者1名
 - ・校友会賀詞交歓会 2月10日(日)名鉄ニューグランドホテル 参加者6名
- 2018年度名城大学理工学部退職職員送別会
 - ・日程:2019年3月12日(火)・場所:名城大学タワー75 レセプションホール
 - ・参加者:1名
- 理工同窓会役員派遣(役員会8回/年)
 - 副会長1名 伊藤公一
 - 幹事2名 岩室 隆、常田 勝男
 - 評議員4名 小林 正彦、広倉 寛、岩田 和久、川浦 久幸
- 校友会役員派遣 2名
 - 常任理事 伊藤 栄、常田 勝男
- 名城大学評議員派遣 1名
 - 評議員 岩室隆
- 電気会会誌(第49号)の発行(2019年5月発行)
 - ・電気会ホームページに掲載(希望者には郵送)
- 電気会ホームページの充実と更新

2019年度事業計画(案) (期間:2019年6月1日~2020年5月31日)

- 第53回電気会総会・理工同窓会総会:2019年6月9日(日)
- 卒業研究中間発表会:9月7日(土)電気会役員は審査員として参加。
優秀発表者に電気会長賞を授与。
- 研究室対抗ソフトボール大会支援とOBチーム参加:10月26日(土)
- 電気電子工学科先生との懇談会:11月予定
- 第25回名城大学電気会新春懇談会
日 時:2020年1月25日(土)15:00~18:00
場 所:ホテル名古屋ガーデンパレス
内 容:第1部 パネルディスカッション(予定)、
第2部 懇親パーティー
- 卒業祝賀会
卒業祝賀会開催日:2020年3月17日(火)
- その他
・卒業証書授与式への参加
- 卒業研究発表会の聴講
- 役員会等
電気会役員会 6回/年、評価委員会 1回/年、
代議員会 1回/年
- 役員等の派遣
・理工同窓会
副会長1名 伊藤 公一
幹事 2名 岩室 隆、常田 勝男
評議員4名 小林 正彦、中山 賀博、
岩田 和久、川浦 久幸
- 理工同窓会主催行事への参加
- 校友会役員派遣 2名
常任理事 伊藤 栄、常田 勝男
- 名城大学評議員派遣 1名
評議員 岩室 隆
- 電気会会誌の発行(2020年5月発行)
- 電気会ホームページの充実と更新

2018年度名城大学電気会計報告
(2018年4月1日~2019年3月31日)

収入の部 (単位:円)		
項目	予算	決算
前年度繰越金	3,742,814	3,742,814
新入会員会費	1,410,000	1,260,000
賛助会員費	0	0
理工同窓会交付金	300,000	281,000
雑収入	240,000	55,033
合計	5,692,814	5,338,847
年度内収入		1,596,033

支出の部 (単位:円)		
項目	予算	決算
会議費	200,000	95,715
学生会員援助費	50,000	50,000
新入会員援助費	200,000	198,682
会報発行費	210,000	210,438
ホームページ費	150,000	141,955
慶弔費	150,000	100,000
通信費	40,000	0
行事費	100,000	70,000
卒業謝恩会事業費	500,000	500,000
事務費	30,000	0
名城大学開学100周年寄付積立	100,000	100,000
予備費	200,000	78,000
小計	1,930,000	1,544,790
次年度繰越金	3,762,814	3,794,057
合計	5,692,814	5,338,847

2019年度名城大学電気会計予算案
(2019年4月1日~2020年3月31日)

収入の部 (単位:円)	
項目	予算
前年度繰越金	3,794,057
新入会員会費	1,290,000
賛助会員費	0
理工同窓会交付金	300,000
雑収入	50,000
合計	5,434,057
年度内収入	1,640,000

支出の部 (単位:円)	
項目	予算
会議費	100,000
学生会員援助費	50,000
新入会員援助費	200,000
会報発行費	210,000
ホームページ費	150,000
慶弔費(退職御祝金積立含)	100,000
通信費	20,000
行事費	100,000
卒業謝恩会事業費	500,000
事務費	10,000
名城大学開学100周年寄付積立	100,000
予備費	100,000
小計	1,640,000
次年度繰越金	3,794,057
合計	5,434,057

監査報告

名城大学電気会の役員からホームページ、会誌および書類による事業の報告を受けて、役員の実務執行に関して適正であることを認める。

諸帳簿の記載、現金、貯金等の額に誤りが無いことを確認した。会計の運用は全面的に良好であることを認める。

以上の結果、本会の業務執行および財産管理は適正であることを認める。

2019年4月23日

監査人 大野 英之 印

監査人 河邑 秀康 印

2019 年度電気会役員変更 (案)

役員	氏名	卒年
会長	伊藤 公一	学 I 60
副会長	総務委員会 *中山 賀博	学 I H1
	行事委員会 岩田 和久	学 I 58
	企画委員会 小林 正彦	学 I 55
	会報委員会 川浦 久幸	学 I 61
会計 学内幹事	樋口 富哉	学 I H7
	村上 祐一	学 I H24/博 H29
	*三ツ井優人	学 I H31
顧問	岩室 隆	学 I 45
	伊藤 栄	学 I 50
	常田 勝男	学 I 56
幹事	森 順一	学 II 30
	城 紀義	学 II 33
	開米 和明	学 I 47
	近藤 正幸	学 I 50
	竹中 正美	学 I 50
	松野 一彦	学 I 51
	佐藤 一彦	学 I 51
	中田 和弥	学 I H21/修 H23
	早川 貴久	学 I H21/修 H23
		*鬼頭 優斗
監査 (会計・評価)	河邑 秀康	学 I 46
	大野 英之	45 教員
名誉役員		
名誉会長	氏名	卒年
相談役	尾玉 哲司	
	大江 俊美	学 I 42
	伊藤 昌文	
	多和田昌弘	

歴代電気会会長名簿

1	S 37 ~	服部 誠治	故
2	S 41 ~	若松 寿男	故
3	S 46 ~	落合 靖	故
4	H 1 ~	井原 丈夫	故
5	H 6 ~	栢植 佑好	学 II 43
6	H 11 ~	神田 善郎	学 II 45
7	H 15 ~	岩室 隆	学 I 45
8	H 18 ~	伊藤 栄	学 I 50
9	H 24 ~	渡辺 典保	学 I 56
10	H 26 ~	常田 勝男	学 I 56

*印追加および変更

2019 年度電気会代議員変更 (案)

氏名	卒年	氏名	卒年
橋本 善造	専 II 26	金沢 宮孝	学 I H10
坪井 照雄	学 II 30	田邊 祥隆	学 I H10
織田 繁雄	学 I 32	菅 龍司	学 I H12
中野 重雄	学 II 32	福島 元彦	学 I H13
米良 稔	学 I 35	後藤 大輔	学 I H18
南波 英明	学 II 35	竹田 有希	学 I H20
谷口 正成	学 I 39	加藤 秀行	学 I H21
葛西 栄吉	学 I 40	古川 智也	学 I H21/修 H23
加藤 昇	学 I 49	石田 高史	学 I H23/修 H25
伊藤 和彦	学 I 50	坂野 豊	学 I H23/修 H25
加藤 潤二	学 I 52	杉本 昌駿	学 I H25
外山 泰裕	学 I 53	清田 享稔	学 I H25
中田 光龍	学 I 53	奥田 哲大	学 I H27
岡村 浩一	学 I 55	田中 優太	学 I H28/修
榊原 理浩	学 I 55	水野 翔太	学 I H28/修
渡辺 典保	学 I 56	高橋 真央	学 I H29
加藤 誠治	学 II 56	木下 雅裕	学 I H29
市川 広樹	学 I 59	佐藤 弘輝	学 I H29
横井 真則	学 I 59	岡部 萌	学 I H29
沢田 昭人	学 I 60	木野 裕也	学 I H29
森川 英二	学 II 60	鈴木 浩華	学 I H30
山口祐一郎	学 I 63	山下 恭平	学 I H30
川端 秀昭	学 II 63	松月 大輔	学 I H30
川村 裕一	学 I H2	徳永 将典	学 I H30
二之部昭司	学 I H2	中村 将之	学 I H30
矢部 陽一	学 I H3	岩田 直幸	学 I H30
浅井 覚	学 I H4	*梅村 和輝	学 I H31
長谷川祐一	学 II H5	*堀 侑己	学 I H31
村田 英一	学 I H6/博 H12	*村上 和史	学 I H31
野口 健二	学 I H7/修 H9		

*印追加および変更

*印追加および変更



新任ご挨拶

名城大学理工学部

電気電子工学科 教授 内田 儀一郎

平成 31 年 4 月 1 日より、伝統ある名城大学理工学部電気電子工学科に着任致しました。この紙面を借りて、着任のご挨拶を申し上げます。私は東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻で博士(工学)の学位を取得し、その後、文部科学省 核融合科学研究所(岐阜県土岐市)、マックスプランク地球圏外物理研究所(ドイツ・ガルヒン市)に博士研究員として勤務致しました。これらの国立研究機関では、微粒子を含有するプラズマに関する基礎的研究に従事しました。その後、東京大学生産技術研究所、広島大学大学院先端物質科学研究科に寄附研究部門教員として勤務し、高効率プラズマディスプレイデバイスの開発を手がけました。

その後、九州大学大学院システム情報科学研究院に助教として、また、大阪大学接合科学研究所に准教授として赴任し、現在従事しております新規ナノ材料創成研究とその革新的太陽電池・Li イオン電池への応用研究を展開しております。この度、幸運にも中部地区最大の私立総合大学であり同地区の大学教育を牽引している名城大学に勤務する機会を頂きました。社会で活躍できる人材の育成はもちろんのこと、恵まれた研究環境を最大限に生かし、グリーンイノベーションの鍵となる高効率エネルギーデバイスを実現したいと考えております。皆様方からご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

OBインタビュー



三菱電機エンジニアリング株式会社

高瀬 茂明

昭和62年(1987年)卒業

大学を卒業して早30年。今も当時のまま残る伝統ある2号館で学んだ日々を懐かしく思います。私は、卒業研究では、第2研究室(通称:縄田研)で大江先生の下、「電子銃と超高圧電子顕微鏡用加速管によって構成される電子光学系の最適化とその電子光学特性の数値解析」の研究をさせていただきました。この電子光学系の最適化に用いるシミュレーションは、名古屋大学の大型計算機センターで行うため、大江先生の車を借りて名古屋大学まで行っていました。今でこそ言えますが、頻繁に先生の車で寄り道をして、研究室の仲間と遊んでいたものです。学生特有の元気の良さを懐かしく思います。

このような私でしたが、卒業後は、三菱電機エンジニアリング株式会社に入社することができました。三菱電機エンジニアリングは、総合電機メーカーである三菱電機株式会社の開発・設計を担うパートナー企業として、生活に身近な家電から宇宙開発に至るまで、社会や産業のさまざまなシーンで活躍する製品・システムづくりを、設計開発のプロ集団として支えています。また、私が所属する名古屋事業所では、産業・FAシステム分野において、三菱電機株式会社の製品開発・設計業務を担うパートナーとして事業を展開しており、この中で長年にわたり培った幅広く深い技術・ノウハウと最新の先端技術を融合させて、お客様のニーズにお応えする高品質の技術サービス、製品、システムを提供しています。

私は、入社後ほぼ一貫してシーケンサの開発・設計に携わってきました。学生時代、満足に勉強をしておらず、遊んでばかりでしたので、この仕事をやっていけるのか不安でしたが、配属先の上司や諸先輩に恵まれ、良い意味で最初に「厳しく」ご指導いただいたおかげで、何とかやってこられました。今の自分があるのは、この方々のお蔭と思っており、非常に感謝しています。また、昔は今よりも失敗が許される時代で、その失敗を通して多くの事を学び、仕事の厳しさと共に設計することの楽しさを経験し、成長できたと思っています。満足に仕事を続けるためには、「好き」

「得意」「対価」が必要ですが、私にとって三菱電機エンジニアリングの仕事には、この3要素が備わっており、最高の会社です。このような会社への就職をお世話いただいた縄田先生(故人)には、感謝に堪えません。

現在、産業・FAシステム分野は、大きな転換期を迎えています。国際的なIoT化の流れによるデジタル化の進展、人工知能、生産技術、ロボットなどの技術革新、消費ニーズの変化など、ものづくりを取り巻く外部環境は、今後、大きく変化していく状況にあります。工場の設備、機器のIoT化が進み、エンジニアリングチェーン・サプライチェーンにおけるデータ利活用、FA-IT融合によるスマートファクトリー化が加速しています。こういった外部環境の変化に対応すべく、これからも失敗を恐れずに、挑戦し続けたいと思っています。

また、縁あってJABEE導入に向けての企業人ヒアリングや3年生向け就職セミナーのパネラーとして辰野先生に招いていただいたのを機に、2013年度から2年間、非常勤講師を務め、授業のお手伝いをさせていただきました。今時の学生を知ることができ、その後の会社での採用面接を行う際の参考になっています。大江先生、辰野先生が定年退職され、寂しく感じていますが、2019年度から再び非常勤講師を務めさせていただきますので、また新たな先生方とお知り合いになれることを楽しみにしております。一期一会を大切に、交流を深めさせていただき、大学と企業の橋渡しのお役に立ちたいと思っています。

最後になりましたが、ここ数年、私が大学との繋がりを強めるキッカケをいただきました大江先生(2017年3月定年退職)、辰野先生(2018年3月定年退職)にこの場を借りてお礼申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝と母校の発展を祈念して結びの言葉とさせていただきます。



三菱電機エンジニアリング(株)の「企業理念」と「イメージキャラクター」

研究室紹介 システム・情報通信研究室

田崎 豪 准教授

本研究室では労働力不足解消と、よりよい社会実現のために「ロボットビジョン」といわれる、カメラ画像をベースにしたロボット周辺環境の認識技術に取り組んでいます。具体的には、商品の整理やピッキング作業をロボットアームで自動化しようと試みております。

自動化の対象の一つとして、現在は小売店を検討しています。2018年10月には、コンビニ商品を陳列・廃棄する機能の性能を競う世界大会で優勝し、経済産業大臣賞を受賞しました。世界大会では高精度な物体の位置姿勢推定機能が必要であったため、我々も含め、参加したチームのほぼ全てがロボットに認識しやすいマーカーを商品に貼っておりました。マーカーで高精度化することもロボットビジョンにとって重要な研究の一つですが、我々はマーカー不使用で物体把持を行う手法についても研究しております。

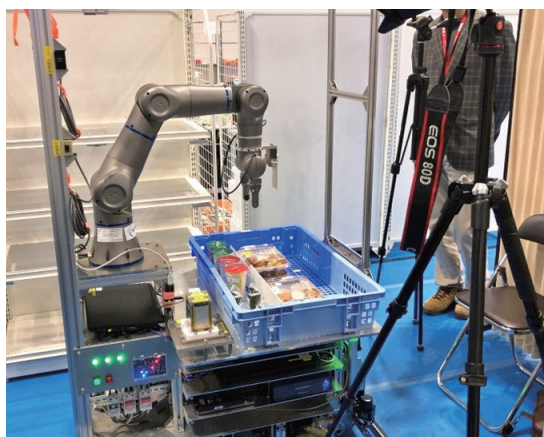


図1：世界大会優勝ロボット

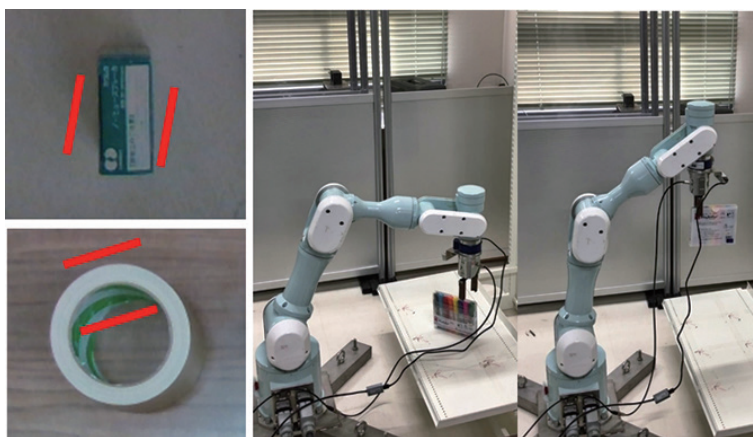


図2：マーカー不使用の物体把持

マーカーを使用しない場合、未知物体については、把持することさえ困難です。産業用ロボットが物体を把持する場合は、すでに形状や把持位置がわかっている物体を把持するため、高度な作業ができます。しかし、商品が頻繁に変わる店舗では、物体の把持法をロボットに教えるコストが高く、なかなか自動化は進みません。そこで我々は、近年画像認識の分野で活発に研究されているディープラーニングという、人間の脳の仕組みをモデル化した学習手法に着目しました。ディープラーニングで、大量の物体の把持位置をあらかじめ学習させることで、これまで見たことがない未知物体であっても、把持すべき位置を判断させます。ロボットには物体を把持するために二本の指がついていることが多いですが、ロボットが取得した画像から、自身の指を挿入すべき位置を自動で検出し、把持します。図2左の画像の物体付近に描画されている二本の線が、指を挿入すべきと判断した位置です。どちらも未知物体ですが、箱であれば両端からわしづかみにしようと判断し、ガムテープであれば、輪の内側と外側に指を入れると判断したことがわかります。図2右のように、判断結果に基づいて指を挿入して物体を持ち上げることに成功しました。今後は把持位置判断だけではなく、マーカーを使用した場合と同様、物体の位置姿勢まで高精度に推定できるようにして、商品の陳列作業をマーカー不使用で行うロボットを開発する予定です。

第41回研究室対抗ソフトボール大会

事業名：第41回電気電子工学科研究室対抗ソフトボール大会
日時：2018年10月27日(土) 9:00～
場所：名城大学 第二グラウンド

今年も電気電子工学科恒例の研究室対抗ソフトボール大会が行われました。前日はかなり雨が降り天候が心配されましたが、皆さまの心がけにより朝方には止み、実施することができました。今年のOBチームは、残念ながら参加者が少なく6名でした。不足メンバーについては、試合の無い学生に応援をお願いし、参加していただきました。

初戦は、毎年優勝している強豪、堀田研究室との対戦でした。やはり、全く歯が立ちません。結果は、13-0であり、完膚なきまでに打ちのめされました。なんとヒットはたったの1本でした。そして、今年も堀田研究室が優勝しました。

続く試合は敗者復活戦で太田研究室と戦いました。ここでは、助っ人の学生の活躍もあり、12-2で圧勝しました。この後、OBチームで昼食をとりましたが最後に勝って終わることができたため気分は上々、大変なごやかにいただくことができました。その他の試合結果は下表のとおりです。

今年も怪我はなく、楽しく参加することができました。OBと学生が触れ合う大変良い機会になったと思います。ご参加いただきました皆様には、お忙しい中、大変ありがとうございました。来年も楽しく参加したいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



試合結果：優勝 堀田研究室
2位 平松・竹田研究室
3位 村本・村上研究室

参加メンバー（敬称略）：
野口健二、北岡涼太郎、岩田和久、伊藤 栄、岩室 隆、伊藤公一

2018年度卒業証書授与式および祝賀パーティー

<卒業証書授与式>

日時：2018年3月20日(水) 13時30分～15時00分
場所：名城大学共通講義棟 H304室

<祝賀パーティー>

日時：2018年3月20日(水) 15時30分～17時30分
場所：名城大学6号館1階グラン亭

名城大学全体の卒業式が愛知県体育館で行われた後、電気電子工学科の卒業証書授与式が、名城大学天白キャンパス共通講義棟東館 H304室で行われました。今年度は、学部卒業生 141名、修士修了生 25名の皆さま（以下、卒業生）に証書が授与されました。

式典では、はじめに児玉哲司学科長から祝辞が贈られました。今年度は、留年もなく、全員で卒業式を迎えられたことに労いの言葉がかけられました。そして、大学で学んだことを糧にし、新たな環境で活躍してほしいというエールが贈られました。

次に、寺西正明理工学部後援会会長の祝辞があり、大学卒業は人生の大きな節目であり、今後は社会人として気持ちを切り替えチャレンジしてほしいということ、そして、この機会に、ここまで育ててくれたご両親に感謝の意を表してほしい、ということが述べられました。最後に、電気会代表として伊藤会長から祝辞が贈られ、大学時代の友達は一生の宝のものであり大切にしてほしいということ、そして、年に一度の電気会新春懇談会を友達との再開の場にしてほしい、というお話がありました。

祝辞の後、学科長から学位記が卒業生全員に手渡しされました。次に、電気会から、卒業論文および修士論文の発表会で優秀賞を受賞された修士修了生3名、学部卒業生11名に、お祝いとして図書券をお渡ししました。そして、卒業生全員に、「小型機能性時計コック」をプレゼントしました。

卒業証書授与式の後、場所を名城大学6号館1階グラン亭に移動して、卒業祝賀パーティーが開催されました。電気会からは、伊藤会長、小林副会長、岩田副会長、岩室顧問、伊藤顧問、常田顧問、開米幹事の7名が出席しました。

パーティーは昨年と同様、企画と運営を大学院生と学部生で担当頂き、当日の会場設営と司会進行も担って頂きました。学科長、電気会会長の祝辞の後、乾杯は小林副会長が行いました。そして、しばらく歓談の後、各研究室別に先生を中心として記念撮影を行い、名城節を斉唱の後、全員で記念撮影を行いました。そして最後に、岩田副会長が閉会の挨拶を行いました。大変なごやかな雰囲気であり、卒業生の皆さまには大変思い出に残る一日になったと思います。

卒業証書授与式および祝賀パーティーの様子は、電気会のホームページにも掲載していますので、是非ご覧ください。卒業生の皆さまの今後の活躍を期待致します。ご卒業・ご修了おめでとうございます。



第 24 回 名城大学電気会 新春懇談会

日時 2019年1月19日(土) 17時00分～20時00分
 場所 ホテル名古屋ガーデンパレス
 内容 第一部 パネルディスカッション 3F 錦の間 17:00～17:50
 テーマ:「夢について語り合おう」
 第二部 懇親パーティー 2F 翼の間 18:00～20:00

式次第

- 一、開会の辞
- 一、名城大学 学歌斉唱
- 一、電気会会長挨拶
- 一、電気電子工学科長挨拶
- 一、理工学部長挨拶
- 一、校友会会長挨拶
- 一、乾杯 理工同窓会会長 歓談
- 一、名城節斉唱
- 一、閉会の辞

参加者

- ・一般 33名(電気会役員含む)
- ・来賓 15名 ・教員 8名(OB教員3名含む)
- ・大学院生 5名 ・学部生 21名 計82名

新春懇談会は、諸先輩方のご努力と皆様方のご協力により、第24回を迎えることができました。ご来賓の皆様をはじめ、多くの方々にご参加頂き、心より深く感謝いたしております。

今年の参加者は、昨年と同じ82名でした。特筆すべきは、26名もの学生にご参加いただいたことです。新春懇談会の目的の一つは、特に若い会員の皆様にとっては人脈を広げ、自分の成長や仕事に役立てることだと思います。この意味において、若い会員の参加が増えたことは大変喜ばしいことと思います。

第一部では、電気会初の試みとして、パネルディスカッションを行いました。テーマは「夢について語り合おう」です。コーディネーターは、電気会会長の伊藤と電気電子工学科の伊藤先生、パネラーには、学生10名と若手社会人7名にご参加いただきました。

学生からは、「自動車の関係の技術者となり、社会に貢献したい」「現在卒業研究を行っているテーマであるプラズマに関連した企業に就職し、大きな成果を上げたい」など、積極的に夢を語っていただきました。一方、若手社会人からは、「日本の企業は、就職ではなく就社である。自分の望む仕事に必ずしも就けるかどうかはわからない」という現実的な問題も提起されました。これに対し、学生からは、「転職をしても夢の実現を目指す」、「たとえ今の夢が実現できなくても、与えられた仕事の中から自分の夢や目標を見つけていきたい」、という前向きな意見がありました。

後半は、聴講者である会場の諸先輩方からご意見を伺いました。「技術だけでなく、経営学、営業などこれから視野を広げて勉強してほしい」、「夢や目標が定まらない場合は、目の前の仕事を一生懸命に行うことが重要」、「難易度の高い公的資格の取得も行うとよい」、「失敗を恐れずチャレンジしてほしい」、「夢はで

きるだけ高いほうがよい。たとえ実現できなくても大きな成長が期待できる。」「自分のためより、家族や社会のために貢献すること、このような志をもってほしい。」等々、大変貴重な多くのご意見をいただきました。

今回のパネラーは、いわゆる「ミレニアム世代」です。バブル崩壊以降に生まれ、経済低迷の中で育ち、少子高齢化等の社会問題にも直面し、「夢の持てない世代」、「さとり世代」などと言われています。しかし、このディスカッションでは、夢について若手が大変積極的に発言し、頼もしさを感じました。このような若手会員にとって有用な企画を今後も続け、さらに参加者を増やしたいと考えています。

パーティーでは、今年も、名城大学出身の津軽三味線奏者杉山大祐様の情熱的な演奏で飾っていただきました。杉山様は10歳から津軽三味線を習い始め、現在はプロとしてご活躍されています。津軽三味線の全国大会では2度の優勝を果たされており、海外での演奏経験もあるそうです。

続いて電気会会長、電気電子工学科長、理工学部長、校友会副会長から挨拶を賜り、その後、理工同窓会会長より盛大に乾杯のご発声を頂きました。歓談の途中では、理工学部後援会会長代理、理工学部事務長、OBを含む電気電子工学科教員、各科同窓会役員の皆様からご挨拶を頂き、再度、杉山様の演奏がありました。そして、その後、知多の地域活性化を目的として結成されたアイドルグループ「知多娘」のパフォーマンスがありました。知多娘のリーダーは、名城大学の現役学生です。知多娘は、MCも大変面白く、アンコールもあり、大変盛り上がりました。

後半は、電気会岩本顧問の音頭により名城大学の応援歌を全員で斉唱しました。そして最後に、全員で記念撮影を行った後、電気会副会長の岩田が中締めを行いました。

今年も、大変充実した楽しい新春懇談会になったと思います。来年もできる限り多くのご参加をいただきたいと思いますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。



第 25 回新春懇談会のご案内

日時	2020年1月25日(土) 15時00分～18時00分	内容	1. パネルディスカッション (予定) 15:00～15:50 2. 懇親パーティー 16:00～18:00
場所	名古屋ガーデンパレス		

2018年度電気電子工学科卒業研究中間発表会

日時：2018年9月8日(土) 集合9:30
場所：名城大学 天白キャンパス タワー75 2階 学生ホール
スケジュール：

- <発表会> 第1回 9:40～11:00
- 第2回 11:10～12:30
- 第3回 14:00～15:20
- 第4回 15:30～16:50

<表彰式および懇親会> 17:30～18:30
場所：名城大学 天白キャンパス タワー75 レセプションホール

電気会は、2016年度から、名城大学理工学部電気電子工学科との共催により、卒業研究中間発表会を実施しています。その目的は、以下の通りです。

- ① 学生に電気会への理解を深めていただくこと。
- ② 社会人(ビジネス)の立場から研究内容を評価し、学生に対して指導を行うこと。
- ③ 電気会が大学の研究内容に対し、より理解を深めること。

今年度は、学部4年生139名および修士2年生25名の学生が発表を行いました。発表方法は、ポスターセッションの形式です。スケジュールにあるように4回に分けて発表を行い、電気会の審査員が評価を行いました。研究内容は、電力系統、太陽光発電、ロボット制御、可視光通信、レーザ応用、電波応用、機械学習、殺菌処理、車両運転支援等々、電気電子技術を核として、その応用分野は極めて多岐に渡る幅広い内容であり、いずれも大変興味深いものでした。

学生の発表に対する全体的な評価は、とても高いという印象を持ちました。ポスターの書き方、発表の仕方、研究内容への理解、質問への対応などの平均レベルは高く、教員の皆さまの日頃の指導に対し、敬意を評したいと思います。ただし、一部の学生においては、研究の背景への理解や類似研究の調査が不十分であり、また、研究成果の最終的なアウトプットイメージが不明確な方が見えました。ビジネスにおいては、数ある研究の中で自己の研究の位置づけを明確にすることや最終的な展開をイメージすることは極めて重要です。また、自身のモチベーションを高めるうえでも重要なことだと思います。今後は、研究の中身そのものだけでなく、背景や展開方法などの周辺についてもさらなる調査検討が必要だと思います。

卒業研究の中間時点において、社会人からこのような評価を受けることは大変意義のあることだと思います。学生・大学院生は大変勉強になったのではないのでしょうか。

懇親会では、各回の発表者の中から、電気会にて最も優秀な学生を1名ずつ、計4名を選定し表彰しました。そして、賞品として図書券をお渡ししました。表彰を受けた学生は、いずれも大変熱意

のあるプレゼンテーションを行い、わかりやすく説明されていました。来年の2月には、卒業研究発表会が予定されています。卒業研究を行うことで、企画力、問題解決力、文章力、プレゼンテーション力など、様々な仕事で役立つ総合的な力が養われると思います。学生の皆さまは、一生懸命、これに取り組んでいただきたいと思います。

電気会会長賞受賞者：

- ①加藤聡太(堀田研究室)「複数の識別器を用いた pix2pix に基づく細胞画像のセグメンテーション」
- ②伊藤銀二(伊藤研究室)「ラジカル直接照射によるリグノセルロースの高速高効率分解」
- ③大澤郁実(太田研究室)「パッドヘッド放電を用いた難分解性有機物の分解」
- ④加藤大樹(中條研究室)「FPGA カメラを用いた同期ローリングシャッター可視光通信による多値変調」

審査員：岩室 隆、伊藤栄、常田勝男、森 順一、川浦久幸、伊藤公一



2018年度電気電子工学専攻 修士論文公聴会 卒業研究発表会 優秀発表賞受賞者

修士論文優秀発表賞

受賞者	題目
小林 大貴	太陽光発電が大量に導入された電力系統における蓄電池システムと火力機の協調運用計画に関する研究
山本 隼	地上デジタル放送波およびGNSSを用いた高精度・高安定発振器に関する研究
伊賀 一憲	ハイパワーインパルスマグネトロンスパッタリングを用いたダイヤモンドライクカーボン成膜プロセスの気相診断

卒業論文優秀発表賞

受賞者	題目
梅村 和輝	ガラス割れモジュールのIV特性・EL画像・熱画像の相関性に関する研究
藤井 直希	Net2Net を利用した非同一次ロボット間の知識転移
山下 拓未	プラズマ処理を施した土壌によるカイワレの生長促進
吉田 勇太	気液界面プラズマを用いて合成した銅微粒子による細菌の殺菌
神谷 修平	植物成長に及ぼす電界およびジベレリンの影響
田中 雄貴	高電界パルスによる微生物の核酸の抽出
林 拓未	地形情報に基づいたホイールエンコーダーとLidar情報統合による自己位置推定
田口 規洋	電動アシスト自転車による自転車シミュレータの改良型制御回路の開発
堀 侑己	酸化窒素ラジカルと紫外光照射による線維芽細胞の増殖促進
水上 絵理	最適潮流計算による送電制約を考慮した蓄電池システムの当日運用に関する研究
村上 和史	FPGAを用いたRSデュアルカメラによるOOK可視光通信の高機能化

優秀発表賞受賞者論文紹介

学籍番号	173427009	氏名	小林 大貴	指導教員名	山中 三四郎 益田 泰輔
題目	太陽光発電が大量に導入された電力系統における蓄電池システムと火力機の協調運用計画に関する研究				
Title	Coordinated operation scheduling of battery energy storage system and thermal generators in power system with a large integration of photovoltaic generation				

1. 背景・目的

近年、太陽光発電(PV)の導入量は加速しており、このまま導入が進み、PVが大量導入されることで需給不均衡の発生が予想される。ここで、PV出力予測を用いて発電機起動停止計画(UC)を数時間ごとに修正することで停電の発生を減少できる可能性がある。また、バッテリーなどのエネルギー蓄積装置(BESS)を運用することで余剰電力を有効活用できる。本研究では日本全体で著しく大量にPVが導入された電力系統における、BESS充放電計画と火力発電機のUCをPV前日予測および日間予測に基づき作成・修正する手法を提案・評価する。

2. BESS充放電計画とUCの作成修正

Fig. 1にBESS充放電計画とUCの作成・修正のイメージ図を示す。

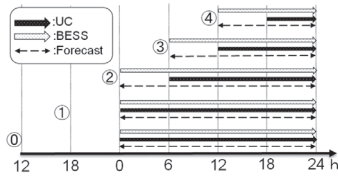


Fig. 1 Time chart of BESS schedule and UC determination/updating.

BESS 充放電計画の目的関数・制約条件

目的関数：日負荷需要曲線の平準化
 制約条件：同時充放電の禁止
 1日の充電電力量と放電電力量の一致
 蓄電電力量の初期・終端条件

UCの目的関数・制約条件
 目的関数：発電機運用費の最小化
 制約条件：需給の一致
 発電機出力上下限
 LFC調整容量
 運転予備力
 PVの優先給電

3. シミュレーション結果

3通りのケースを想定する。ケース1は、計画の修正は行わない基本ケース。ケース2は、計画を6時間ごとに修正する提案ケース。ケース3は、PV出力の実際値が前日12時の時点で完全に予測できると仮定した参考ケース。Fig. 2~4にそれぞれ各ケースの年間の供給支障電力量、PV抑制電力量、PV発電損失量を示す。ケース2では提案手法により年間の供給支障電力量、PV抑制電力量、PV発電損失量が削減されていることが確認できる。

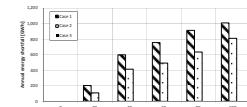


Fig. 2 Annual total energy shortfall.

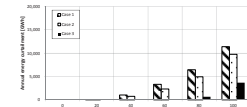


Fig. 3 Annual total PV energy curtailment.

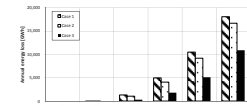


Fig. 4 Annual total PV energy generation loss.

4. まとめ

1年間の需給運用シミュレーションにより提案手法の有効性を評価した。シミュレーション結果から、供給支障電力量、PV出力抑制量、PV発電損失量ともに提案手法によって削減できることを明らかにした。

学籍番号	140442077	氏名	田口 規洋	指導教員名	山崎 初夫
題目	電動アシスト自転車による自転車シミュレータの改良型制御回路の開発				
Title	Development of Improved Control Circuit for Bicycle Simulator with Power-assisted Bicycle				

1. はじめに

当研究室では高齢者向けの自転車シミュレータ(BS)の研究開発を行っている。昨年度製作した自転車シミュレータ用コントローラには数多くの課題があった。今年度は新たに電動アシスト自転車による自転車シミュレータ用コントローラ(BSコントローラ)を製作した。図1にBSコントローラを示す。本研究ではBSコントローラの改良型制御回路を製作したので報告する。

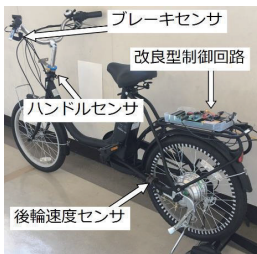


図1 BSコントローラ

2. BSコントローラの概要

2.1 全体構成

BSコントローラは自転車のハンドル・ブレーキ・ペダルの状態をPCへ出力するUSBデバイスである。3つのセンサ(ハンドル、ブレーキ、後輪速度)と制御回路で構成されている。

2.2 制御回路の課題

旧型の制御回路は、PCとUSB通信するた

め市販のゲームパッドの回路を使用した。ゲームパッドの入出力電圧特性は上限・下限ともに飽和ゾーンを有する問題があった。解決には、入力値にそれらを考慮した補正をする必要があった。しかし、ゲームパッドのプログラムの書き換えはできないため、H8マイコンを外付けして入力値の補正を行ったが、回路の大型化、配線の混雑化などの問題が生じた。

3. 改良型制御回路の製作

3.1 機能設計と構成要素

課題を踏まえ、改良型制御回路は①ゲームパッドのPICマイコンの代替②自転車と制御回路の一体化③配線数の削減④速度制御のフィードバック制御化の4つの目標で設計した。

図2に改良型制御回路のブロック図を示す。改良型制御回路の構成は、USB通信をするPICマイコン、UDP通信をするH8マイコン、後輪速度センサの信号変換回路である。UDP通信はPCのシミュレーションの情報をH8マイコンへフィードバックするために使用した。

3.2 プログラム

PICマイコンはUSB通信と入力値に補正を掛ける機能を担う。USB通信プロトコルを満たすプログラムは難解であったため、今回はMicrochip社が提供するUSBフレームワーク

を活用しプログラムを作成した。H8マイコンのプログラムは同研究室星野氏が作成した。

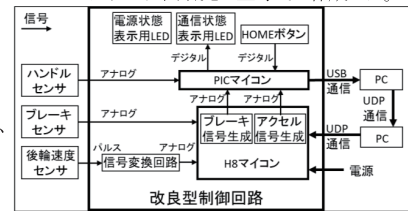


図2 改良型制御回路のブロック図

3.3 性能比較

PICマイコンを用いてUSBデバイスを自作し、H8マイコン無しで入力値の補正を行えるようになった。回路の大きさは210×212mm²から210×115mm²へ約半分になり、自転車の荷台部分に搭載可能になった。また、配線数は26本から9本になった。

4. まとめ・検討課題

制御回路を小型化して保守性が向上できた。BSコントローラは単一のUSBデバイスであることが理想的と考えている。その場合、PC側に専用ドライバの作成が必要である。

参考文献

五関哲也：PICで楽しむUSB機器自作のすすめ,2006

2018 年度理工同窓会 総会のご案内

電気会総会の後、理工同窓会総会が行われます。
電気会会員の皆様は、ご参加ください。
日程：2019年6月9日（日）
スケジュール：

- [1] 記念講演会（入場無料；一般の方も参加可能）
時間：10：30～11：30（開場10：00～）
場所：名城大学共通講義棟北館N101名城ホール
講師：名城大学大学院理工学研究科 終身教授 飯島 澄男 氏
演題：ナノメートルの世界の科学と応用
- [2] 総会
時間：11：30～12：45
場所：名城大学共通講義棟北館N101名城ホール
- [3] 懇親会
時間：13：00～14：30
場所：名城大学タワー75 15階レセプションホール
参加費：2,000円（電気会役員が申し受けます）

講演会申込先：以下のメールアドレスに、お名前、
電話番号、学科、卒業年を記載の上、お申込みください。
＜理工同窓会事務局メールアドレス＞
meijo.rikoudousoukai@gmail.com

名城大学理工同窓会総会記念講演 -
ナノメートルの世界の科学と応用
講師 名城大学大学院理工学研究科 終身教授 日本学士院 会員 飯島 澄男 氏 (いじますみお)
入場無料
どなたでも受講
できます
～カーボンナノチューブの発見者～
～ノーベル賞有力候補～
6月9日
開場 10:00
開演 10:30
閉演 11:30
名城大学天白キャンパス 名城ホール
主催 ●名城大学理工同窓会 後援 ●名城大学校友会、名城大学理工学部後援会
お問合せ ●名城大学理工学部内 理工同窓会 事務局
〒468-8502 名古屋市中区唯宝口1-301 E-mail: meijo.rikoudousoukai@gmail.com
※参加には事前登録が必要です。
※定員に達した場合は締め切ります。
（先着順受付）

電気電子工学科研究室対抗ソフトボール大会へのOB チーム参加者募集！！

日程：10月を予定（決まり次第ホームページにてご案内いたします）
場所：名城大学第2グラウンド
申込先：以下のメールアドレスに、お名前、卒業年を記載し、お申し込みください。
＜電気会事務局メールアドレス＞meijo.denkikai@gmail.com

代議員の募集

電気会では、毎年5月に代議員会を行い、総会議案の審議等を行っていただいています。
現在、以下の学年代議員が不足しています。お引き受けいただける方は以下の申込先にご連絡ください。
昭和 33、34、36、41～44、46～48、51、54、57、58、61、62 年、
平成 8、9、11、14～17、19、22、24、26 年
申込先：電気会事務局メールアドレスに、お名前、卒業年を記載し、お申し込みください。

賛助会員の募集

賛助会員にご応募ください。年会費は1万円です。
電気会ホームページ (URL:<http://meijo-denkikai.jp>) にて企業広告掲載を行います。
※賛助会員：電気会の目的に賛同しその事業の援助を行う者で、役員会の承認を得た個人または団体。
申込先：電気会事務局メールアドレスに、お名前、卒業年を記載し、お申し込みください。

会員情報更新のお願い

住所や勤務先が変わられた時は、電気会ホームページの会員情報変更申請頁から情報更新をお願いします。

電気会会誌の送付について

電気会会誌は、電気会ホームページからダウンロード可能です。紙面の送付を希望される方は、電気会事務局メールアドレスに、お名前、送付先住所を記載のうえ、お申し込みください。